高等商業学校教授　下野直太郎
同　石川文吾
横浜正金銀行　太田保一郎
同　菊地幹太郎
同　相沢坦
帝国商業銀行　杉浦寿太郎
高田商会　柳谷巳之吉
同　志保井重要
日本郵船会社　大谷登
同　神成李吉
同　三本重祗

以上二十三名

第二五号（明治三十五年十二月）

(4) 渋沢男外二君帰朝歓迎会演説筆記

《前略》

諸氏演説筆記

第一席　男爵　渋沢栄一君

今夕は同窓会の御方々が御打揃ひで、私の海外旅行を仕舞ふて帰りましたに付て、特に此宴を御張り下されましたことださうで、唯今水嶋君から御懇切の御詞を下さいまして有難く存じます。

私が旅行して帰りましたのは先々月の末でございまして、爾来一ケ月有余も経過しましたが、既に皆さんは御聞及び下さいましたらうが、言語は不通、書物は読めず、唯だ所謂漫遊に四、五ケ月を経過しまして歩きましたのは亜米利加から英吉利、独逸・仏蘭西等も短い時日に見物は致しましたけれども、中々事物を観察するとか、商工業の事情を察知する抔と云ふ大きな御話は申上げ兼るのでございます。が私は学問の素養のある人間でもないのに、殆ど三十年許り以前から偶然にも此商業学校と云ふものとはエライ御縁が深くなりまして、従来日本に居る中からして、始終諸君とは方面違ひ、境遇を異にする身体でありながら屢々御会合を申して、詰りは此商工業に対する或は実務に、若くは教育上の談話を致すことは随分数多くあるやうに思ひまする。此度の海外旅行に於ても、唯今水嶋君は同窓会の会員中一割二、三分は海外に在ると申されましたが、如何にも其通りで、先づ第一に

桑港から致してシカゴに紐育に、又英吉利では倫敦、仏蘭西では里昂、それから新嘉坡に香港に、総て此同窓会の方々に御会見を致して、其内数箇処臨時に会合を御開きになりまして御招きを戴き御饗応を蒙つたのみならず、地方の事情も御聞き申し又旅行の有様をも御話して、所謂胸を披いた快談を致しましてございまする。其款待は甚だ私の悦ぶ所であるのみならず更に私の悦びを増したのは、今申す各地に於て商工業に力の這入つて居る働きの届いて居るのは、他に其人無しとは申せますまいが、併し即ち同窓会の諸君が最も有為な働きを為して居らるゝと云ふことは、決して私が殊に諸君に諛言を呈するのではないのです。即ち隣席にござる渡辺君抔は同窓会会員中の錚々たる御方で、倫敦に於て有力の御人と云ふことは私が今此処に申上げぬでも諸君が疾くから御承知である。此各地に於て御待遇を受けた私の悦びは実に譬へ難い有様であるのです。元来此欧羅巴旅行に付ては屢々私は人に逢ふ毎に申します。便利でもあり奇麗でもあり、大廈高楼に或は壮大なる機械場に、何も彼も総て目新しく嬉しく感ずることが多い。けれども中心顧みると云ふと、其中に大変に辛いやうな感じを持つたのは、例へば大きな工場を視ると我国にさう云ふ物があるかと云ふ感じを持ち、立派な鉄道に乗ると日本の鉄道は如何あらうか、目に触れ事に接する毎に、総て之を身に引較べて見ると云ふと甚だ心苦しい。或は心苦しい所ではない憤慨と云ふ情迄起るのが是は蓋し人の常でございませう。然るに其間に今申す如く同窓会の出身の御方々が各地に於て辱しからぬ位地を有し、而して十分なる働きに依て欧米の人と相上下して事業を経営して居る有様を見まするとと、決して私等の微力でそう云ふ人が成立つたのではないけれども、併し今申す通り最初からして、此商業教育と云ふものは甚だ必要と云ふ観念から、教育上に力は注ぎませぬでも、多少其学校の整理とか学校の発達とか云ふものに関係致した我身から申すと、大層嬉しい感じを持ちまして、単り唯だ憤慨とか苦悶とか云ふ許りでなく、其間に愉快の感じを持つたと云ふことは、寧ろ私は諸君の賜と致して宜い位に感じまするのでございます。

各地見聞の有様は殊に欧羅巴の事情は大抵御委しい諸君の前に喋々申上げる程私も能く知つても居りませぬから、其辺の御話は暫く略して申上げぬと致しませう。詰りどう考へて見ても是れから先きの日本が今の欧米と力較べをしやうと云ふには、何が一番主になるかと云ふたら、人間であると云ふ外申しやうがないかと考へますのです（喝采）。日本の国が俄かに亜米利加と同じやうな面積になる訳にも行かない。或は又英吉利の如く到る処に石炭が出ると云ふ国柄になると云ふことも出来ぬかも知れぬ。併し彼れに左様に長ずる物があれば亦我にも変つた長ずる物がありたいと思ふ。我にても総て皆彼に劣るもの許りとは申されぬであらう。土地に対する事柄とか、風土に係はる事柄とか云ふのは或は一得一失と言ひ得るかも知れぬ。併し茲にどうしても欧米辺りの人々に較べて、甚だ遺憾ながら叶はぬと云ふ外ないのは、どうも人間の智慧とまでは言はぬでも宜いかも知れぬです。智慧は私もそれこそ下級に居るかも知れぬが、此処に御列席の諸君は単に個人の智慧としては寧ろ欧米人を凌駕するかも知れぬ。併し相待つて働きを為す点に於てはどうしても彼等に叶はぬと云ふことは、是は私は恐怖心で云ふのではない。事実左様に思ふのです（喝采）。此原因が何れに在るか之を見出すに苦むのであります。是は今一朝一夕に誰

が言出したと云ふ説でもなし、もう殆ど逢ふ人毎に論じ、寄合ふ度毎に話す言葉でありながら、扨て事実此の病根を見開いて良い方に進めて行くことが、事実に於て出来ぬのは如何にも遺憾な訳でございます。独り此彼れに下る所の病因が吾々商業者、若くは学校から出た御方とか、若くは学校に這入らぬ人とか云ふ或る区域にのみ有ると云ふのならば、それは或は直きに察知することが出来るけれども、どうも私にはさう思はれぬ。政治界の人でも、法律界の人でも、教育界の人でも、商業界の人でも、学校に這入った人でも、学校に這入らぬ種類の人でも、どうも凡べて俱に共に相傷け、俱に共に相睥睨して、帰する所総て己れの位地、己れの品格を損ずると云ふ方に相努めると云ふ弊害が甚だ日本には多い（喝采）。若し今日の有様、今日の姿で進んで行きましたならば、縦令百の学校、千の大学校があつても、遂に事業上に或は社交上に、彼等と相幷んで行くことは出来ないと思ふ外なからうと存じまするのです（ヒヤ〳〵）。要するに此病根は御互に詮議したら見付かるに相違ないと思ひまするが、マア私共の一、二考へて見る所では、どうも自身の責任を軽んずると云ふ事と、それから兎角に自らを褒める。褒めると云ふ趣意でもないでせうけれども先づ人の名分を傷けると云ふことは、吾々一の東洋臭気とも言ひますか、又或は或る部分には直様に人の長処、極く其骨髄を察知する注意はせずに、無礼にも之を冷笑する。笑ふは蓋し之を破るのである。マア総てさう云ふやうな有様で、相集まれば公徳を軽んずる。相対すれば信用を自らに薄くする。一言半句の言語が己れ一身の責任を破るのみならず国に対しての面目を損ずると云ふが如きことも、詰り我が分を深く図つてやると云ふことが極めて少いからであらう。之に反して彼等殊に英吉利人は、其点に付てはもう滅切りと吾々と違ふやうなる観念を持つて居るやうに見えるのでございます。果して私が今憂ひる点が事実左様であるならば、斯の如きは到底吾々が何時までも瑕瑾な人間たるより外仕方がないから、果して左様ならば、爰に御列席の諸君抔は学問に、知識にもう十分な処に至つて居る諸君であるから、此病根は何である、又自ら慎むは此処に在ると云ふことを知り得ると同時に、之を改めることが出来ねばならぬと考へまするのです。此御懇切な御招待を受けました御席に対して、妙な御互に相警戒する如き言語を吐きますのは甚だ殺風景な申上げ方になるか知れませぬが、どうも欧羅巴旅行で見て見ますると、別して英吉利人の実に一人の責任を重んずる、又大勢集つて風儀の良い、相傷けず、相破らず、去ればと云つて唯だ無闇に唯々諾々に人の説に従ふかと云ふに決してさうでない、所謂自信の念が大変に強い、其強いに拘はらず所謂幷び馳せて相悖らずと云ふ有様は真に感心致しまするが、之に引換へて内に顧みると云ふと、さう申す己れ自身が第一に気に喰はぬ。己れ自身が気に喰はぬで直せぬから貴様に直せと云ふことは申悪くいが、併し結局御互に努めて此風紀をして十分に改良せねば、若し学問が進んで行つても、例へば商業学校をして遂に大学たらしめても、此風紀で推して行つたならば到底彼等と競ふて十分なる事業を為すことは六ケしいと言はねばならぬやうに考へまするのです。他の商工業の盛大なる有様等に付て私が見た事を申上げぬでも皆諸君は御承知である。唯だ人に属する病根は如何であるかと云ふことは私自身も解釈に苦んで居るのであります。どうぞ諸君にも十分御講究下すつて、果して病根が見付かつたら直ちに直さなければいかぬが、縦令見出すことが出来ぬでもどうか今

の英吉利人のやうにありたいと考へましたならば、蓋し思ひ央に過ぎるだらうと考へます。既に前にも申す通り年輩も違ひ、境遇も違ふ諸君は、吾々は貴様等のやうな古風な人間でないと御思ひでございませうが、併し今の病は矢張り同じ臭気に、其バクテリヤは多少貴君方にあると御理解下すつて間違ひはないと思ひます（ひや〳〵）。私が懺悔して申上げる。どうか諸君の身体にもバクテリヤが多少あるに依て、十分戒心することを御勉め下さるやうに願ひます。御礼旁々一言申述べて置きます（拍手喝采）。（完）

第二席　　渡辺　専次郎　君

《省　略》

第三席　　福田　徳三　君

閣下並に諸君、此席に於て長い事を申すのは宜しくないから無論長い事は申さぬ積りでありますが、今渋沢男爵の御演説を承りまして、愉快に堪へられませぬから一言申上げます。

兎角実業家は吾々の如き学問をして居る者を擲まへて迂濶であると云ふことを能く言ふのです。故に吾々は非常に迂濶であると思つて平生引込んで居る。

今夕も実業家諸君の御集まりであつて、最も僅かな而かも年少である私であるから、無論黙つて居る覚悟で参りました。所が実は此間学校の祝宴会にも御話がありましたが、今又男爵から一層委しく御話を伺ひまして、非常に私は嬉しいから一言申上げたいと思ふのは、非常に迂濶であると云ふことを自分で信じつゝ又引込思案をしつゝも、学校に於ては非常に大きな声を出して言ふて居り、学校の学生の半分以上は私の言ふ此事を常に皆聴いて居ること、即ちそれは今渋沢男爵の御話になつた人間の値打ちと云ふことである。私は欧羅巴に参つて四、五ケ年と云ふものは無闇に古い事を研究して居つた。経済史が私の専門である。其古い事を調べた結果、どう云ふ事を私の頭に残したか何も外にない。唯だ斯う云ふ事が残つた。欧羅巴と日本との違ひはどうであるか。外形に於て違ひがあるけれどもソンナ事は何時でも真似られる。唯だどうしても真似る事が出来ない根本的の差違と云ふものは、日本に於ける所の人間一人一人の値打ちの甚少い事である。欧羅巴や亜米利加と較べて見ると人間の値打ちと云ふものが大変に違ふ。天然の富だとか、或は資本だとか云ふものは成程較べにはならぬ。けれども此等は決して英国で見ても昔しから充実して居た訳ではない。それは歴史に訴へて見れば直ぐに分るのです。唯今渡辺君の御話もありましたが、英吉利は十四世紀から十六世紀あたり迄は商業国でなくして、農業国であつた。而して英吉利の商業は誰がやつたかと云ふと、独逸人がやつて居つた。其れが今日の様な大商業国の基礎を作つたのは何時であるかと云ふと、千七百六十年から千八百十五年に至る僅か五十年斗りの間になした大進歩が基となつて居る。日本はどうかと云ふと、私が古い事を突ついた結果、細かい事は色々ありますが、一体の今迄の人の見様が違つて居る。嘗て欧羅巴の人間が日本に対する感想が間違つて居る。又日本人が日本を見ることが間違つて居るが、西洋を見ることも間違つて居ると云ふ意見を書いて欧州の学者

の意見を取た事がある。それに反対者もあれば賛成した人もあつた。併ながら自分は半信半疑と云ふものは、日本の事を能く知らない、西洋の事も能く知らない、況んや単に本を読んで得た結果であるから実務に従事する人は何と言ふか分らない。それで自分の意見を発表して日本の実業家諸君の御意見を伺つても見たいし、又西洋の実業家丼に学者の意見も聞いて見たいと思つて居つた。けれども御覧の通り青二才であるからさう云ふことも出来ぬで時機を待つて居つたが、段々我日本の遣り方を見ると、労働の賃銀が非常に安い、五十銭出せば車屋が一日駆ける、五十銭で人間が一日駆けると云ふやうな有様に於ては、如何に四千万の人間が勤倹をやつた所が富の度は知れて居る。或は世間では日本の富を増すに付て勤倹貯蓄、外資輸入に重きを措て其必要を論じて居る者がある。それは無論必要ではあらうが、今渋沢男爵よりそれよりもつと深く進んで人間の値打ちを増すのが必要だと云ふ御話があつた。実に然りである。五十銭の人間が五円取る人間となれば、日本の富は直ちに二億円の増加となる。勤倹貯蓄や外資輸入等の到底望めない巨額になる。そこでそれなら其人間の値打を増すにはどうするか。是は自分の田に水を引くではないが詰り教育に重きを置くより仕方がない。一人々々がさう安くは働かない値打のある人間とならねばならぬ。併ながら又本当に値打もないのに無闇に鷹揚に構へられても困るが、兎に角今日よりも値打の多い安くない人間を多く拵へなければならぬ。吾々は御列席の実業界の諸君とは違つて、極く引込んだ見栄えのない教育事業に極めて安月給で従事して居ますけれども、之を以て自分は甘んじて居つて将来決して動かぬ積りでやつて居る。生涯教育と云ふことに従事する積りでやつて居るが、少くとも私一人は人間の値打ちを増すことが必要であると思ふからやつて居る。成程実業家になつて巨万の富を重ねることは必要であろう。吾々は出来ぬがそれはやつて見たくないことはない。それをしないで居るのは必ずしも自分に技倆が無いと云ふことを信ずる許りではない。百円や二百円の貯蓄は或は出来ると思つて居る。けれどもそれを能うしないで今日甘んじて教師など云ふ詰らぬ様な事をやつて居ると云ふものは、月給目当では馬鹿らしくて出来ぬ。学校で養成した人間で値打ちのある人間が出来たならば、自分はどんな迂濶な人間として世間から罵られ、如何に世間から嘲けられても、吾々の学校から充分値打ちのある立派な人間が続々出来たら、外資を三千百五十万円輸入するよりも、勤倹貯蓄をするよりも遙かに宜い仕事だと云ふことを確信して居るからである。詰まり渋沢男爵が曾て唱へられた所の商業学校許りでなしに商業大学を拵へて貰ひたいと云ふことを言ふので、決して吾吾は唯だ無暗に喧しいことを云ふのではない。実は諸君の前でそんな事を言ふ必要はないですが、商業大学を拵へたからと云つて、今日より六ケしい学科を教へるかと云ふに左程種がないのである。銀行論は諸君が御遣りになつてより六ケしいものは無いのは知れて居る。経済学にしろ地理にしろ算術にしろ其外にしても皆同じである。大学を拵へて深遠高尚の学理を修めしむるかと云ふにさうではない。余り深遠高尚に流れると商業社会で何も出来ない。詰り予備教育の完全した人間が出なければ困る。若し大学と云ふものでないならば誰も来ない。茲に御列席の諸君が学校に出でた頃はさうではなかつたが、今日は大分時勢が違つて、商業学校に来る人は大学に這入ることは希望するが入学試験が六ケしくて這入れないとか、年限が長過るとか、或は

事情が許さぬで這入れないと云ふやうな種類の人が先づ半分以上を占めて居る。でさう云ふ人、而かも予備教育がまだ左程でない人を攫ひて幾ら商業教育を施した所が、値打ちのある人間は余程望み悪くいので、或は吾々の遣り方も悪るいのでせうがそれは又改良する途もあらうと思ふ。兎も角も根本に於て学校に這入つて来る人間に、もう少し値打ちのある人間に這入つて来て貰へば、左程長い年限を費さぬでも出来はしないか。又今のやうな学校の程度でもさう云ふものが一方に在るとすれば、縦令それより程度の低い学校に這入る人でも良い人が集まる。必ずしも大学を希望する人でなくても良い人が這入つて来る。事情も許し学力も能く備はつた人が這入つて来る。是は余り剝出しで或は諸君の御気に障るかも知れぬ。吾々がさう云ふ事を言ふのは、渋沢男爵が曾て唱へられたから吾々は熱心する気になつたのですが、吾々は唯だ渋沢男爵ばかりに御頼みするのでなくして、吾々自身がさう云ふ値打ちのある人間を欲しいのである。それでなければ商業道徳を説かうが、奨励金を遣らうが保護税をかけ様が到底駄目な話である。唯今御話のあつた亜米利加トラス（ママ）と云ふことでも之を経営する人がなければ起り様がない。亜米利加天然の富は今も昔も変らない。処が亜米利加には昔からインデヤンが居つた。其インデヤンは今日何をして居るか。天然に富んだ亜米利加に住み乍ら段々滅亡して行くではないか。即ち亜米利加の土地がえらいのではない。アングロ、サキソンが今日の亜米利加を為したのである。天然は昔と少しも変りはしない。気候が急に工業に適するやうになつた訳でもない。詰り其処に住う人間が値打のある人間になつたのである。日本に於ても亜米利加人の如き、若くは英吉利人の如き者を住はしむれば、必ず日本は亜米利加或は英吉利に負けないやうになるに相違ない。さうするには教育より外には途はないのである。それを云ふと英吉利、亜米利加に於て商業学校を要さなかつた理由は何処に在るか。英吉利の社会と云ふものは個人の値打ちが増して居る。学問の語で云ふと、経済単位の発達が完全の域に達して居る。自分の権利を主張すると同時に義務を重んずる。権利思想の発達と同時に義務思想が発達して居る。羅馬法で養はれた権利の観念が強いと同時に、義務の観念が強い。其の権利思想も発達して居なければ、義務の思想も発達して居ない日本の社会は、幾ら競争しても駄目である。之れと競争して打勝たうとするには、一足飛びに進歩して人間の値打の殖へる途を講じなければならぬ。それには則ち英吉利、亜米利加より進歩した所の教育制度が必要になつて来る。それが当局者にまだ容易に分らない。今日私が見た所に拠りまするとと、今まで商業学校不必要論者の好んで引用した例となつて居る英吉利では、此程バーミンガムに大学をたてゝ商科大学と云ふ一分科大学をチヤンと拵へて居る。さうして第一流の経済学者アシュレーと云ふ人を米国から引張つて来て学長として、而かもバチエラーヲブコンマース、と云ふやうな称号迄拵へてある。今渡辺さんの御話になつたやうに、容易に動かない保守的であると云ふ英吉利ですら斯様であるのに、非常に真似をするに巧みなる、それを唯一の特色としてそれで以て今日迄進歩して来た後進国の日本が、商科大学を設くるのにさう長く掛る様では迚も駄目である。日本国は破産して仕舞ふかも知れぬで、之に就て渋沢男爵に御尽力を願ふと云ふことは日本の為めに不幸である。若し渋沢男爵に時間の余裕があれば御願ひするも宜い。又是非御願ひしなければならぬが、日本に於て渋沢男爵に御願ひ

する事業は他に沢山あるのである。有力なる御演説を承つた後は此事の如きは吾々同窓会でやらなければならぬ。然るに同窓会多数の人は或は吾々は実業社会に身を投じて居る者であるから、ソンな事をやつては居られぬ。学校に居る若い連中に任せて置くと言はれるかも知れぬが、果して学校に居る連中がそれを任せらるゝだけの値打ちのある人間かと云ふと、さうではない。御覧の通り吹けば飛ぶやうな人間ばかり揃つて居る。決して不平を言ふのではないが僅かな月給しか貰へない値打のない人間である。どうしても是は吾々見た様な若輩では行かぬ。立派な方が運動して下さらぬと困る。斯う云ふ事は高い所から言はなければ駄目である。吾々見たやうな者が下の方から幾ら金切り声を出した所が人が相手にしない。吾々が千言万語を費して雑誌抔に書くよりは、渡辺君の如き、藤田君の如き、成瀬君の如き其外えらい御方の名前を一々は言ひ切れないが、さう云ふ御方々が責めて商科大学の商の字だけでも言ふて下されば、さう長く掛らぬでも出来るだらうと思ふ。私の希望する所は私が死ぬ迄に出来れば宜いと思ふ。併ながら今の有様で見ると、私は此中で一番年少者であるけれどもどうも六ケしさうである。私は今年来年には望まない。或は五、六年の間にやつて呉れとは望まないけれども、十年二十年の後にやることは、三年五年の間にやると云ふ積りでやらなければ出来ない。渋沢男爵の御話の如く多少皆バクテリヤが居るに依て、一つ渋沢男爵に御願ひして血精予防法を講じて頂だいて、もう少し商科大学の完成に力を用ゐてやりたい。日本の人間が進歩しないと云ふのは、私が詰り永年の古い事を調べて得たる結果と合致して居る。又学校で経済学の講義をするのに、毎時間にどうか人間の値打ちと云ふことを何処迄も感じて貰ひたいと云ふことを言ふて居る。渋沢男爵が他年の実験上から考へられた事と、吾々が僅かな本を読んで得た所のものと合致して居るので、今日私は愉快に堪へられぬ。ソコデ学者は迂遠であるからと云ふて引込んで居る可き場合がない。何処迄も此人間の値打を増す、殊に商業界に値打の高い人間を続々と拵へなければならぬ。ソレニハ是非共諸君が奮発して商科大学の完成に熱心して下さらなければ、日本は世界の競争に負けて仕舞ふと云ふ事を飽迄主張したいと思ふのであります（拍手喝采）。（完）

第二六号（明治三十六年二月）